

高学年提案

研究主題

「Let's try communication more!」～児童が主体的に取り組む外国語教育の創造～

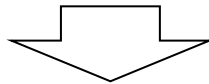
目指す児童像

様々な表現や言葉を用い、他者意識をもちながら、自分の考えや気持ちを伝え合う子ども

☆5年研究授業 外国語 単元名『Unit5 Where is the post office?』

5年生児童の実態

- ALT の話を聞いたり、全体で発話したりする場面では、参加できる児童も多く、基礎的・基本的な英語の語彙の表現であれば、聞いたり話したりすることができる。
- 友達と積極的に英語でやり取りをしようとする姿勢は見られるが、会話としてのやり取りではなく、文章を読み合う活動で終わってしまう。



- ◎英語の歌や簡単なゲーム、フレーズのやり取りを通して、どの児童も意欲的に活動できる内容を組み立てる!

「児童が主体的に取り組む」ための手立て

(1) 様々な表現や言葉を使う

- ・外国語に慣れ親しむための導入の工夫
リーダーによる英語の挨拶から始まり、「How are you? Time」「歌」を繰り返し、学習に対する緊張感を和らぐことができるようにする。
- ・言葉や表現の掲示の工夫
やりとりの例示は、イラストに単語を添えたカードやいろいろな尋ね方をICTで掲示する。掲示したカードを頼りに、それまでに音声で聞いて十分に慣れ親しんだことを思い起こしながらやり取りができるようにする。

(2) 他者意識をもたせる

- ・ALTの活用
ALTと児童が相互にコミュニケーションを取る場面を多く取り入れる。ALTとのやり取りでは、スムーズな会話の流れを実感できるようにする。
- ・相手への応答の仕方を例示
やりとりを通して、相手が話したことを繰り返したり、リアクションをしたりすることで、会話をつなげたりできる応答の仕方を例示し、意識付ける。

(3) 自分の考えや気持ちを伝え合う

- ・必然性のある場面設定
学校という身近な場所を案内することで、普段意識していない英語に対する意識が高まり、必然性が生まれる。ゲームの要素を取り入れ、楽しみながらも正しく伝えるため・正しく聞き取るために互いのやり取りを高める場を設定する。

本時のポイント

- ・グループで学校案内をする活動は、児童の主体的な活動を促す上で有効だったか。